

構成資産を知る(その三)相川金銀山①

今回は構成資産の一つ「相川金銀山」のうち鉱山で働く人々が住んでいた「上相川地区」を紹介します。相川金銀山は、鶴子銀山の山師たちが新しい鉱脈を求めて山にわけ入り、地表に露出した鉱脈を発見したことが大規模開発の始まりとされています。

これにより、江戸時代初期に相川金銀山を目当てに全国から多くの人々が来島し、慶長5(1600)年頃には上相川に町が誕生し、最盛期を迎えたとされます。

この時期は、佐渡一国が幕府の直轄地となつて佐渡奉行所が置かれるなど、佐渡の歴史にとつても大きな転機となつた時代です。

特に、相川の人口は一時期4、5万人まで増えたとされ、そのにぎわいぶりを「上相川千軒」とも例えられた上相川の人口もそのころ最も多かつたと考えられます。

最盛期から数十年たった慶安5(1652)年の記録では、上相川には22の町と513軒の家があつたとされ、山の神を祀つた大山祇神社やたくさんの寺もあつたことが分

かっています。

金銀山の繁栄とともに発展した上相川の町は、金銀山が衰退するにつれ、職を失つた人々が次々にほかの場所へ移り、瞬く間に人口が減少していきました。江戸時代後期の記録によると、家の数34軒、町の人口は多くても300人ほど、明治時代初期には人口89人となり、やがて明治33(1900)年頃には住む人がいなくなり、神社や寺も移転し、鉱山の町は再び山中に姿を消すことになりました。



上相川絵図(市教育委員会蔵)(上)と石組遺構が残る現在の「上相川」の旧道部分(下)

産業観光部世界遺産推進課

☎ 63-5136

佐渡文化財団からのお知らせ

ディープな佐渡はいかがですか? 「さど芸能アーカイブ」誕生!

さど芸能アーカイブは、佐渡民謡や鬼太鼓、文弥人形、のろま人形、能、佐渡鷺流狂言、春駒、つぶろさしなど佐渡の伝統芸能を紹介したサイト(QRコード)です。



このサイトは、各伝統芸能の歴史や年間スケジュール、アクセス方法などの情報が詳しく掲載されています。また、画像や映像も盛りだくさんです。佐渡の生活習慣や環境、歴史と共に歩んできた伝統的な郷土芸能を、ぜひご覧ください。



佐渡民謡活性化実行委員会事務局(教育委員会社会教育課佐渡学センター内) ☎ 52-2447
または、佐渡文化財団 ☎ 58-9112



文化ふつつ新潟!

国民文化祭・にいがた2019 ~文化ふつつ新潟!~ 2019年9月15日~11月30日開催

全国規模の文化の祭典が来年新潟県で開催されます。佐渡も舞台となり、多くの方が佐渡の文化に触れる機会となります。

随時、国民文化祭の情報を発信していきます。

佐渡文化財団 ☎ 58-9112